

就労支援に活かせる発達障がい(自閉症)の 行動理解と工夫を学ぶ

発行元：半田市 令和2年2月

就労支援において、“こだわり”の強さや、コミュニケーションの取り方に「困った」と感じ、「なぜ?」と思うことがあります。発達障がい(自閉症)の方との関わりにおける「困った」は、特性と行動の背景を知ることで、支援方法に工夫を加えることができます。

今回は就労支援に関わる相談支援専門員と就労支援事業所に対して、実際のケースをとり上げながら、現場の「困った」を一緒に考える研修を行いました。

- 【概要】開催日時：令和2年1月24日(金)
9時30分～11時30分
講師：土肥 克也氏
(特定非営利活動法人 PakaPaka)
場所：雁宿ホール 社会適応訓練室
参加人数：29名



❁ 「行動」に着目した理解方法 ❁

●「行動」とは?

具体的で、目に見え、自分以外の人にも同じように見えることです。

●行動の原理を理解する

行動にあらわれるまでの意識の変化やあらわれ方を3段階に分けて考えます。

A：行動のきっかけ(例：指示、場面)

B：行動

C：行動後の結果や関わり(例：周囲の反応)

同じ行動であっても、AやCの違いで、その意図(伝えたいメッセージ)が異なります。

- ①注目：自分をみてほしい
- ②要求：何かをしたい
- ③逃避：嫌なことを避けたい
- ④感覚：自分の刺激がほしい

行動後のCが意図に合っている場合、その行動が強化され、あらわれやすくなります。

支援のなかで「困った」行動がみられた際には、単に行動をやめるよう注意するだけでなく、なぜその行動があらわれたのか、その行動で伝えたいことに注目して分析しましょう。

❁ 「困った」行動を減らしたい! ❁

行動の背景にある意図を確認した上で、望ましい・好ましいありかたを本人に伝えるため、ルール等を示します。

1. 代価行動を伝える

その行動よりも複雑ではない、その場にふさわしい行動を伝え、同じ結果を示します。ポイントは、発言を促すなどコミュニケーションに替えることです。

2. 好ましい結果(ごほうび)を作る

本人が喜ぶことを結果にすることで、望ましい行動の強化を図ります。ただし、期間を一時的なものにして、もらえる基準を設け、量や機会を徐々に減らしていく必要があります。

「問題」と感じる行動は、事業所の職員みんなで共有しましょう!

行動があらわれる頻度や状況などを記録し、数字として問題認識を共有することができます。

問い合わせ先 半田市障がい者自立支援協議会事務局
半田市障がい者相談支援センター 法安・安藤
TEL 0569-21-5585
半田市役所地域福祉課 富田・澤田
TEL 0569-84-0643